

プロジェクト研究報告書（平成13年度～平成15年度）

21世紀の特殊教育に対応した教育課程の望ましい
あり方に関する基礎的研究

平成16年3月

独立行政法人
国立特殊教育総合研究所

まえがき

この報告書は、平成13年度から平成15年度に行われたプロジェクト研究「21世紀の特殊教育に対応した教育課程の望ましいあり方に関する基礎的研究」の研究成果をまとめたものである。

盲・聾・養護学校の教育課程は、基本的には、幼稚部については幼稚園に準じた領域と自立活動で、また、小学部・中学部・高等部については、小学校・中学校・高等学校に準じた各教科（・科目）、道徳、特別活動、総合的な学習の時間及び自立活動で編成されている。特殊学級についても、特に必要がある場合には、盲・聾・養護学校小学部・中学部学習指導要領を参考として、特別の教育課程を編成することができることとされている。しかし、どのように準じるのか、どのような特別の教育課程が望ましいのかについては、教育関係者の間で種々論議がなされてきているところである。また、このことについては、各学校・学級が障害のある子どもの「生きる力」をどのようにとらえて教育を進めていくかということとも大きく関係している。

本研究においては、このような状況を踏まえて、学校教育の目的及び役割は何かということを念頭におきながら、改めて特殊教育における教育課程の基本的あり方を整理するとともに、どのような教育内容をいかに編成し、提供していくことが望ましいかについて検討することをねらいとした。このようなねらいのもとに、教育課程の在り方について、研究協力機関のご協力を得ながら検討を進めてきた。本報告書では、さまざまなテーマについて検討を行ってきた成果をまとめている。

また、本研究の一環として行った海外調査及び盲・聾・養護学校教育課程調査の詳細については、別冊で資料集としてまとめている。

文部科学省では、今後の在り方として特殊教育から特別支援教育へという方向性を打ち出しているが、本報告書がこれからの特別な教育的ニーズのある児童生徒への学校での取組の充実に寄与することを願うとともに、この領域の研究のさらなる進展のために、忌憚のないご意見をいただければ幸いである。

最後に、本研究を進めるに当たりご協力をいただいた研究協力機関、研究協力者の方々に、深く感謝の意を表する次第である。

平成16年3月

研究代表者

独立行政法人国立特殊教育総合研究所

総合政策情報センター

プロジェクト研究部門長

宍戸和成

プロジェクト研究「21世紀の特殊教育に対応した教育課程の望ましいあり方に関する基礎的研究」

研究組織

研究代表者

宍戸 和成
(総合政策情報センター・プロジェクト研究部門長, 聴覚・言語障害教育研究部長)

研究推進会議メンバー

千田 耕基 (視覚障害教育研究部長)
笹本 健 (肢体不自由教育研究部長)
牟田口 辰己 (視覚障害教育研究部弱視教育研究室長)
竹林地 毅 (知的障害教育研究部重度知的障害教育研究室長)
徳永 豊 (知的障害教育研究部軽度知的障害教育研究室長) *
齋藤 宇開 (知的障害教育研究部重度知的障害教育研究室研究員)
當島 茂登 (肢体不自由教育研究部肢体不自由教育研究室主任研究官)
武田 鉄郎 (病弱教育研究部病弱教育研究室主任研究官)
渡邊 章 (情報教育研究部情報教育研究室長) *
(* は研究推進会議幹事)

文部科学省

鈴木 篤 (初等中等教育局視学官 兼 特殊教育調査官)
柘植 雅義 (初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官)
藤本 裕人 (初等中等教育局特別支援教育課特殊教育調査官)
石塚 謙二 (初等中等教育局特別支援教育課特殊教育調査官)
古川 勝也 (初等中等教育局特別支援教育課特殊教育調査官)
島 治伸 (初等中等教育局特別支援教育課特殊教育調査官) (平成 15 年度)

研究協力者

安藤 隆男 (筑波大学心身障害学系助教授)
太田 俊己 (千葉大学教育学部教授)
大南 英明 (帝京大学文学部教授)
香川 邦生 (筑波大学大学院教育研究科教授)
川住 隆一 (東北大学大学院教育学研究科教授)

川間 健之介（山口大学教育学部助教授）
河野 哲也（防衛大学校人文科学教室助教授）
真城 知己（千葉大学教育学部助教授）
高橋 和明（北海道教育庁生涯学習部小中・特殊教育課特殊教育班指導主事）
谷本 忠明（広島大学大学院教育研究科助教授）
中島 外男（元群馬県総合教育センター特殊教育課長，現群馬県立聾学校長）
（平成13年度）
西川 公司（国立久里浜養護学校校長）
早坂 方志（青山学院大学文学部助教授）
山下 皓三（独立行政法人国立特殊教育総合研究所名誉所員）
山本 昌邦（横浜国立大学教育人間科学部教授）
横田 雅史（愛知みずほ大学教授）

所内研究協力者

松村 勘由（聴覚・言語障害教育研究部言語器質障害教育研究室長）
棟方 哲弥（情報教育研究部教育学研究室長）

研究協力機関

北海道札幌盲学校
北海道拓北養護学校
青森県立八戸第一養護学校
千葉県立養護学校流山高等学園
筑波大学附属桐が丘養護学校
新潟大学教育人間科学部附属養護学校
山梨県立富士見養護学校旭分校
岐阜県立長良養護学校
愛知県立岡崎聾学校
大阪府立高槻養護学校
宮崎県立宮崎赤江養護学校

目次

まえがき

研究組織

第1章 21世紀の特殊教育に対応した教育課程の望ましいあり方に関する基礎的研究	1
－研究の概要と経緯－	
第2章 障害別の検討	
I 盲・聾・養護学校における教育課程に関する歴史的経緯	5
II 障害別の検討	
1. 盲学校における課題	11
2. 聾学校における課題	21
3. 知的障害養護学校における課題	31
4. 肢体不自由養護学校における課題	49
5. 病弱養護学校における課題	58
III 盲・聾・養護学校における教育課程に関する課題	66
第3章 横断的な検討	
I 教育理念	
1. はじめに	69
2. ノーマライゼーションと障害児の教育－環境と主体の相互関係性の観点から－	70
3. 教育課程の捉え方－その歴史的変遷－	74
4. 今後の教育の展開に向けて－意識改革の本来的意義－	80
II 自立活動	
1. 自立活動の基本的理念	87
2. 自立活動と教科等との関連等	94
3. 自立活動における今後の課題	97
III 評価	
1. 盲・聾・養護学校における学習評価の基本的な考え方	99
2. 個別の指導計画に基づく学習評価の在り方	104
3. 目標に準拠した評価の進め方と障害への配慮	109
4. 盲・聾・養護学校における学習評価の課題	154

第4章	盲・聾・養護学校における教育課程の実施状況に関する調査結果の概要	157
第5章	主要国における特殊教育に対応する教育課程の概要	171
第6章	学校事例	
I	北海道札幌盲学校における教育課程の見直しと整備について	185
II	愛知県立岡崎聾学校における個々の子どもの教育的ニーズへの対応	193
III	新潟大学教育人間科学部附属養護学校における小・中・高の一貫性のある取組	198
IV	千葉県立養護学校流山高等学園における教育課程に関する取組について	203
V	北海道拓北養護学校における個別の指導計画を中心とした取組	212
VI	岐阜県立長良養護学校における教育課程に関する取組 －教育課程の類型化と個別の指導計画による指導の個別化－	217
VII	青森県立八戸第一養護学校における自己評価活動を生かした指導と評価	225
第7章	21世紀における望ましい教育課程の展望	
I	望ましい教育課程の在り方	235
II	教育課程に関する課題の整理	
1.	教育課程編成上の基本的な事項	240
2.	教育課程と個別の指導計画のつながりについて	242
3.	自立活動の位置づけと内容の整理	244
4.	小中学校における教育課程の課題	246
III	「特別支援学校（仮称）」の教育課程の今後の在り方	
1.	特別支援学校（仮称）を想定した場合の課題について	247
2.	今後の教育課程の基準の在り方について	249